



二〇二四 春号

海禅寺新聞

Vol.41

『海禅寺新聞』第41号

境内の梅が開きだし、春の訪れを感じる今日この頃です。
弘法大師空海さんの言葉に次のような一文があります。

〈原文〉

禿（かぶろ）なる樹、
定んで禿（かぶろ）なるに非ず、
春に逢うときは
即ち栄え華さく。

〈意味〉

冬に葉が落ち枯れてしまい、
寂しげに見える樹木も
いつまでも枯れているわけではない。
厳しい冬を乗り越え、
春になれば新しく美しい花を咲かせ、
枝葉が伸び、青々と茂る。

『秘蔵宝鑑』

弘法大師が私たちに伝えたかったのは、「どんな人にも仏のような素質が備わっている。ただそれが芽吹くには、自分の努力と合わせて外からの働きかけも必要。太陽の光、湿度、雨などが枯れ木を芽吹かせるように。」ということなのです。

仏教では、どんな人であっても、人間の本質は「悪」ではなく、「善」なるものであると捉えています。そしてその上でどう

したら私たちは「幸せ」であるのかを探求してきました。

私たちは老若男女問わず、今この瞬間も誰もが色々な可能性をもっています。仮に不運不幸だと思えても、悲観し絶望する必要はなく、焦らず腐らずあきらめず日々精進していれば、いつか時が来て、縁が巡り、その芽が吹きますよと教えています。

人間の中には、大谷翔平選手のようにスポーツの世界で大活躍する人もいれば、庶民には考えられないくらいビジネスで大金を稼ぎ出す人もいます。しかし私たちのほとんどは、日常的に自分の中に渦巻く感情、喜怒哀楽の波を乗りこなし、時にその波に吞まれないながら、平々凡々と時を重ね、そしていずれこの人生を閉じていきます。

であるのならば弘法大師が説く、私たちの人生にとって「芽吹く」とはどういうことでしょうか？ 幸せは誰に決められるものでもなく、自分の心が決めるものです。

人生は季節が巡るがごとく、片時も留まることがなく、変化していきます。良いことも悪いことも、いずれも永遠に続くことはなく、どんな物事も必ず移ろっていきます。

あれこれ過剰に考え込まず、日常の当たり前の中にある有り難さにまずは気付きを向けましょう。するとその芽吹きは始まっていくことでしょう。

海禅寺も皆様の芽吹きをお支えするよき縁の一つであるよう、精努力して参ります。



春彼岸会 中日法要のご案内

恒例の春彼岸会法要を海禅寺本堂でお勤めいたします。皆さんで先祖の供養をいたしましょう。どうぞご家族そろって出かけください。（申込不要）

日程：令和6年3月20日（水・祝）
時間：受付 午前10時

法要 午前10時30分～

※法要終了後は茶話会をいたします。お時間許す方はご歓談ください。

※彼岸会中日法要の供養塔婆をご希望の方は、3月16日（土）夕刻までにお申し込みください。（供養塔婆料 一基 3000円）

※同日午前9時～午後1時まで永代供養堂の扉を開けています。お堂の中には入れませんが、外からご自由に参拝いただけます。
電話 … 0268-2212972
ファックス … 0268-261147

『生きる力 vol.1-6』送付

年に4回お届けしている宗派発行の小冊子です。皆さまの「生きる力」を養う一助としていただけましたら幸いです。

本号で最終回となる連載がいくつかあります。締めくくりの一文。各筆者が最も皆様に伝えたかったことが込められています。ぜひ一読ください。

告知 『海禅寺ヨガタイム』

一昨年からは海禅寺で月一回のペースでヨガ教室を行っています。未経験者大歓迎です。単発の参加でも大丈夫です。ご希望の方は、QRコードかお電話でお申込みください。

基本的に本堂で行いますが、冬季は床暖房のある会議室で実施しています。また昨年夏から本堂に大型エアコンが入りました。季節に応じて暑さと寒さをしのげる快適な室温管理ができるようになりました。また3か月に1度は「姿勢改善ヨガクラ

ス」になります。筋膜リリース道具（3種）とストレッチポールを使用します。美姿勢エクササイズで美ボディ&アンチエイジングを目指します。

指導…山浦佳子 先生
日程… 4月7日（日） 通常ヨガ
5月25日（土） 通常ヨガ
6月8日（土） 姿勢改善ヨガ

指導…各回午後2時半～（約90分間）
費用…1回1500円
会場…本堂または会議室
定員…15名
申込…必須です

参加申し込みQRコード↓
電話での申し込みも受け付けています。



おねがい

第13回 聖天祭 開催決定

壇信徒の皆様にご理解ご協力をいただき5月の恒例行事となった聖天祭は、おかげさまで13回目となります。

実行委員会では、お祭りをお手伝いいただけるスタッフを大募集中です。内容は、会場準備・片付け・駐車場係・会場案内・見回りなどですが、ご無理のない可能な時間帯に限ってでも構いません。お祭りを作り上げる喜びを共有していただき、お檀家の皆さん、そして有志のスタッフの皆さん同士が、あたたかな仲間としてご縁が広がっていくことを願っております。ぜひお気軽にお問い合わせください。

※受付数に限りはありますが、出店者の募集もしております。いわゆるテキヤの方のお申込みはお断りしております。詳しくは寺にお尋ねください。(事前申込必須)

【聖天祭 日時】
日程：令和6年5月19日(日)
時間：午前10時～午後3時

よろしくお願ひます

しょうてんまつり

聖天祭

スタッフ大募集



年回忌ご法事のすすめ

皆様よくご存じの通り、ご法事とは身内や親しい人たちが集まって、故人様の供養をする仏教的な行事です。

コロナ禍の最中は自粛されるご家庭も少なくありませんでしたが、猛威を振るつた新型コロナウイルス感染症が、季節性インフルエンザと同等の5類感染症と定められてから、海禅寺では年回忌のご法事依頼が大変に増えて参りました。中にはコロナ流行期間に行いたかったけれどできなかった法事を、次期遅れで勤めるお檀家さんもおられます。

そうした中でご法事の時間帯について、今後基本的に次の3つの時間の中からお選びいただき、寺にご依頼くださいますようお願いいたします。

- ① 午前9時半から
- ② 午前11時から
- ③ 午後2時から



※お斎(会食)を伴うご法事の場合は、②の時間をお選びください。寺の会議室を会場としてお使いいただくこともできます。

※時間や会場について、個別のご事情がおありの場合、可能な範囲で臨機応変に対応いたしますのでご相談ください。

※故人様の年回忌がいつであるかわかりにない場合、寺で確認できますので気軽にお問い合わせください。

※ご遠方の方のお塔婆供養も承ります。
※ご案内の通り本堂に大型エアコンが3台入り、冬は暖かく、夏は涼しい環境が整いました。

最近はお子様やお孫さんを伴って、大勢のご参拝も増えて参りました。その一方で

お宅によっては、小さな子どもは法事の最中に騒ぎ出してお寺に迷惑をかけるからと、連れて行くのを敬遠することもあるようです。しかしご存じのように海禅寺は隣接地で認定こども園を運営しております。住職と副住職は年中大勢の乳幼児に囲まれて賑やかに仕事をしておりますので、数人のお子さんが多少騒いだぐらいではまったく気になりませんので安心してご一緒にご参拝ください。

ご法事と子どもといえば、数年前こんなことがありました。こちらのご一族には積極的な性格のお子さんが揃っており、法事の最前列にゾロリ小さい方たちがお座りになりました。一般的なお寺ではご本尊様の前に住職が座り、その後ろに参拝者が座るという配置が多いものです。しかしご存じの通り海禅寺では、ご本尊様と向き合う住職の斜め前にお檀家の皆様がお座りになるという位置関係にあります。お勤めを始める前、ふとお檀家の皆さんの方を見ると、好奇心にあふれたお子さんたちの眼差しが私をじつと見つめています。純朴な瞳が発するエネルギーに臆してはならぬと、常の如く読経を始めました。お子さんたちも厳粛な雰囲気を感じたのか、神妙な様子です。

拝み始めて中ほどを過ぎると、皆さんにご焼香をご案内します。ご焼香が終わる再度着席されたころ、私が木魚を叩きながら光明真言をお唱えしようとしたその時、事件は起こりました。最前列にズラリ座っているお子さんたちが木魚のリズムに合わせて首を振り始めたではありませんか！

集団というのは恐ろしいものでお子さんたちは楽しくなってきたのか、その首の振り幅はどんどん大きくなり、まさにロックコンサートで聴衆が興奮し行う

ヘッドバンギング状態になったのでした。周囲の大人たちは慌てますが、彼らの熱狂は止められません。うろたえる方、笑いを必死でこらえる方など、周囲の反応は様々で何とも愉快な空間になったのでした。

拝む私はどうと、動揺してはならぬと不動心を決め込み、ともかく一生懸命お勤めを続けたのでした。(実際は笑い出す寸前)

法事後、お施主さんとはとても申し訳なさそうに謝罪されましたが、悪気ない子どもさんの自然な行動。私はこの珍事に不思議と心があたたかくなる思いがしました。

数年時が経過し、再度ご法事でこのお子様たちに再会した際、すっかり成長している姿に、まるで親戚の一人のような心境でしみじみしたものでした。



やはり人が一人お亡くなりになるといふのは大変な事です。だからこそ親族は、大人も子どももその一大事に皆で向き合っていくことがとても大切なことであると思えます。かけがえのない方との別れに感じる悲しみは、簡単に癒えるものではありません。だからこそ、近しい皆で支え合いながら故人を想い、そして我が命がここにある不思議に感謝しながら手を合わせることが、私たちの魂を成長させていくことに繋がっていきます。

ご法事は、故人の冥福を祈り、人との繋がりを確認し、自分の命に感謝できる素敵な行事です。